












■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)オーヴィジョン金田	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.2 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.4	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.6
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.1
特になし		特になし	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.3	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.5	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
共用部・住戸内共に主要な照明はLED照明を採用した。また、給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに配慮した。		流し台等の水栓は節水コマ等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.7	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
特になし		道路沿いへ植栽帯を設け、緑豊かな周辺環境に配慮した。	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
共用廊下・住戸内は段差を無くし、バリアフリーに対処した。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		外構緑化指数	
		28 %	
		建物緑化指数	
		0 %	

: 入力欄

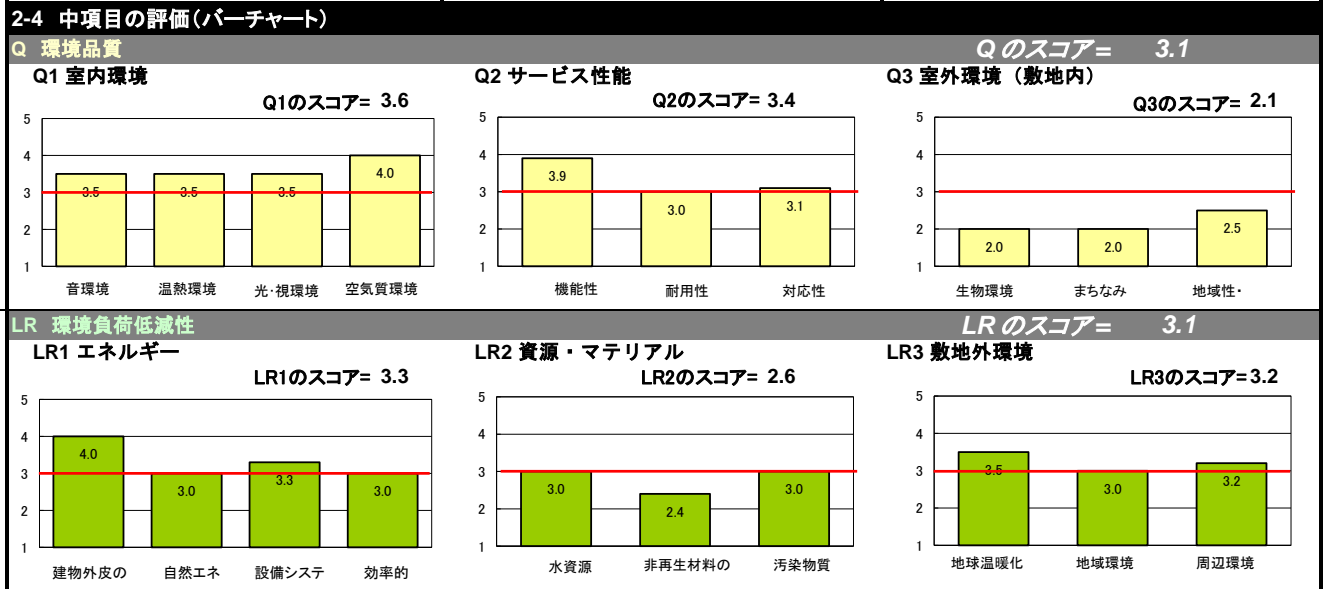
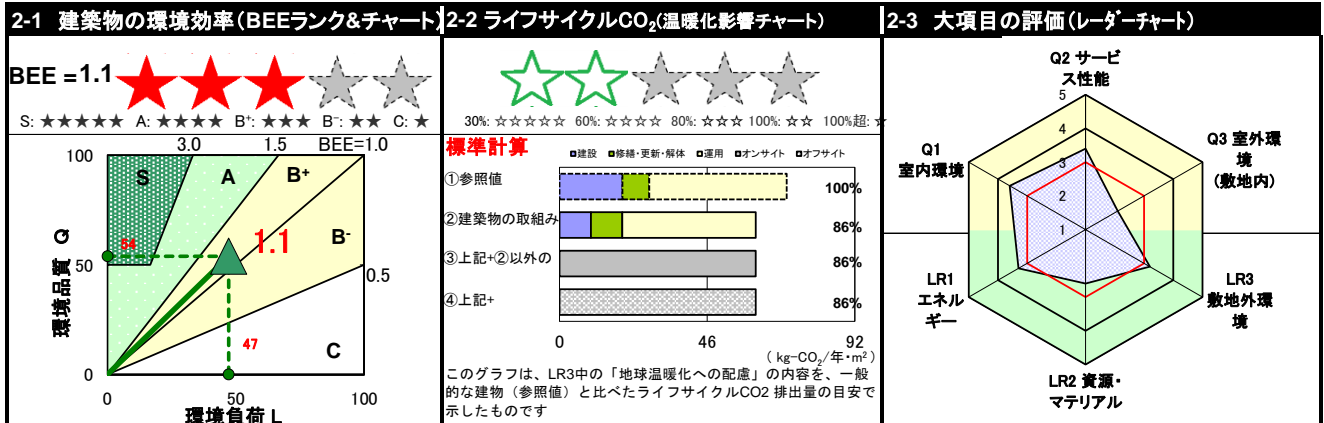
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オーヴィジョン金田	階数	地上14F
建設地	福岡県北九州市小倉北区金田一丁	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	260 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年7月4日
敷地面積	1,683 m ²	作成者	中尾 俊平
建築面積	571 m ²	確認日	2022年7月4日
延床面積	5,855 m ²	確認者	中尾 俊平
		 <p>ください</p>	



3 設計上の配慮事項		
総合 空気住環境、機能的な空間作り、敷地内住環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。		その他 特になし
Q1 室内環境 全住戸は複層ガラスを使用、外壁は断熱材を吹き付けた防露壁とした。 また、シックハウス対策はF☆☆☆☆材料を使用した。	Q2 サービス性能 共用廊下・住戸内には段差を無くし、バリアフリーに対処した。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺に配慮した建物高さ、配置を行っている。 また、道路沿いへ植栽帯を設け、緑豊かな周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー 共用部・住戸内共に主要な照明はLED照明を採用した。 また、給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに配慮した。	LR2 資源・マテリアル 流し台等の水栓は節水コマ等を採用し、便器も節水型とし、水資源に配慮した。	LR3 敷地外環境 光害(漏れ光など)によって周囲に悪影響を与えないよう、外灯等の照明器具は設置位置や高さに配慮した。 また、外灯の点灯・消灯はタイムスケジュール制御とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)オーヴィジョン金田■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.1	
Q1 室内環境					0.40		-	3.6	
1 音環境				4.0	0.15	3.5	1.00	3.5	
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		-		5.0	0.50	4.0	0.50		
1 開口部遮音性能		T-2サッシを採用[A-35:鋼製建具表]		5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		-		3.0	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		LL-45の床組みを採用[A-10:仕上表(2)]		3.0	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		LH-50の床組みを採用[A-10:仕上表(2)]		3.0	-	4.0	0.20		
1.3 吸音		-		3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境				2.6	0.35	3.7	1.00	3.5	
2.1 室温制御		-		3.0	0.50	4.0	0.71		
1 室温		-		3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能		断熱性能等級4[A-4:特記仕様書(4)]		3.0	0.38	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		-		3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	3.0	0.29		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.7	1.00	3.5	
3.1 昼光利用		-		4.2	0.30	3.4	0.50		
1 昼光率		共用部:29.63%、住居部:5.67%[昼光率算定図]		5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口		-		-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		-		3.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御		庇及びカーテンにより制御[A-17:断面図(1)]		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		-		1.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.0	1.00	4.0	
4.1 発生源対策		-		5.0	0.60	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用[A-10:仕上表(2)]		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気		-		3.0	0.40	2.3	0.38		
1 換気量		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		-		3.0	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		-		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		-		3.0	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4	
1 機能性				2.8	0.40	4.2	1.00	3.9	
1.1 機能性・使いやすさ		-		3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		-		3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		Gbitクラス対応[E-16:TEL,LAN系統図]		3.0	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		-		3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観		-		3.0	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-		3.0	-	-	-		
3 内装計画		-		3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理		-		2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-		2.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		-		3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級2[A-4:特記仕様書(4)]		4.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にB以上を使用[P-03:特記事項・凡例・樹リスト]		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		-		2.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		1.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高=2.91m[A-17:断面図(1)]	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	クーラースリーブを設置している[A-10:仕上表(2)]	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	配管を使用する[E-03:幹線系統図、E-12:照明器具姿図]	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	配管を使用する[E-16:TEL,LAN系統図]	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱対策等級4[A-4:特記仕様書(4)]	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	-	3.3	0.50	-	-	3.3
4	効率的運用	-	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」を過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	